

平成29年度 一般選抜中期日程/国際商学科 外国語
出題の意図と解答の傾向

I (140点)

問1

【出題の意図】

全体の文章の流れに即して必要となる基本的な英単語を文法的に適切な形にして答えることができるかを問う問題。この問題では文章読解力と文法能力の両方が求められる。

【解答の傾向】

全体的に正答率は低く、以下のような問題点が多く見られた。

- (1) 「必要であれば文法的に適切な形に変えること」という指示があるにもかかわらず、文法的な変化をさせていないもの。
- (2) 「語を下から選び書き入れなさい」という指示があるにもかかわらず、番号を記入しているもの。
- (3) 文法的活用語尾の変化は相対的にできていなかった。

問2

【出題の意図】

Those who spend more time, more features in their spoken language that derive from のような関係代名詞を含んだ形容詞節が理解でき、比較的長めの文の意味が取れるか問うたもの。

【解答の傾向】

- (1) 単語レベルの誤訳

educational system (教育制度) : 教育機関、教育体系などの訳が散見された。

written language (書き言葉) : 筆記言語、文語などの訳が散見された。

feature (特徴) : future (将来)との混同が1~2割ほど見られた。

derive (由来する) : ~を奪うなどの語訳が散見された。

- (2) 本構文は関係代名詞が用いられており、それぞれ主語と目的語を限定したものであり、概ね理解されていたが、上記の単語の意味が分からないため発生した誤訳が2~3割ほどあった。

問3

【出題の意図】

社会階層と発音の特徴に関する文章に述べられている要点が把握できているかを問う問題。

【解答の傾向】

- 1) ほとんどできていた。不正解の原因は、問題文をきちんと捉えていないことである。問題文では、「英語音声のどの特徴を」調査したのかと尋ねているのだが、不正解の解答の多くは「" place of occupation and socio-economics status " による発音の違い」(を調査した)としており、「英語音声のどの特徴」なのかという問に答えていない。
- 2) 40字という制限の中で適切な解答を書くには日本語の文章力が必要である。採点にあたっては次の二つの部分を重視した。まず、三つのデパートの違いを日本語としてどう説明しているか。次に、母音後の/r/の音の伴う(あるいは伴わない)答えを引き出すための質問をしたことをどう説明しているか。

るかである。直訳しては 40 字に収まらない。比較的多かった解答は、「三つのデパートの店員に、婦人靴売り場はどこかと尋ねる方法で」といったものだったがこれでは不十分である。この解答の後半は、婦人靴売り場の事しか尋ねなかったように書かれているが、" such as where are the women's shoes?" の " such as " を解答に反映すべきである。

- 3) ・半数ほどは、模範解答の主旨に沿った記述ができていたようであるが、 [r] の発音が所属する階層の指標となる」ということを正確に指摘できたものは皆無だった。
- ・「社会階層」によってというより、「デパートにより」、「店により」、「店員により」等の限定した範囲での、[r] の発音の特徴を述べた解答も多かった。

問4

【出題の意図】

Reading の調査でわかったことの要点を簡潔にまとめる問題。

【解答の傾向】

- (1) 完答と思われる記述は 10 名程度あった。
- (2) 「中流階級」や「労働者階級」と明示せず、「上位の階級」や「下位の階級」と表現する者も目立った。
- (3) 「上位の階級ほど [r] を発音しない」あるいは「下位の階級ほど [r] を発音する」という大雑把な解答が 3～4 割あったように思われる
- (4) イギリスとニューヨークを比較して等、地域差による [r] の発音の特徴を述べる者も一定程度あった。
- (5) 「[r] という同じ変項に関する社会的価値観が全く異なること。」という主旨を解答する者も 3 割程度あったようである。
- (6) 解答者の過半数強は、基本的な意味は捉えていたようである。

問5

【出題の意図】

whether ~ or not が理解できているか、主部と述部が明確に捉えられているかを問う問題。

【解答の傾向】

- (1) 冒頭の That is, (すなわち) を正確に訳している解答は少数にとどまった。
- (2) 構文がとれていないケースが多い。主文の having (S) ~ marks (V) you as ~ を正確に理解せず、副詞句である whether 以下を主文に組み込んで、「あなたがそれに気づいているかどうかによる」としている解答が多数みられた。
- (3) 主文の主語となる動名詞部分 having (V) this feature (O) occur (C) を「使役構文」(直訳すれば「この特徴を生じさせること」)として正確に理解していると思われる解答はほぼ皆無であった。「この特徴を持つこと」とする解答が多数みられた。
- (4) 単語の意味を取り違えて文意を決定的に損ねている解答が多数みられた。とくに feature (特徴) を「未来」(future)、「恐れ」(fear) とした解答や、frequently (頻繁に) を「流暢に」(fluently) とする解答は、課題文全体の意味をまったく理解していない可能性があるため、大幅に減点した。
- (5) その他、不適切な訳語として(辞書には載っていても、文脈上不適切なものも含めて)以下のも

のがあった。speech (発話) を「スピーチ」「演説」とするもの。particular (特定の) を「特別の」「特殊な」「特有の」「特に」(副詞の particularly) とするもの。realize (気づく) を「実現する」とするもの。

11 (60点)

問1

【出題の意図】

基本的な語彙、表現、文法を用いて短い文章を英訳する問題。

【解答の傾向】

- ・ある程度理解可能な文が書けているものが6～7割程度あったが、文法上、表現上の正確さを欠くものが非常に多い。概して後半部分、2つめの利点はよく書けていた。
- ・以下のような問題点が散見された。
 - (1) at one's own pace 「自分のペースで」がほとんどできていなかった。pace ではなく、pase というスペルエラーも散見された。
 - (2) lecture 講義という単語が思い浮かばず、classroom, classroom experience などで代替したものが多かった。
 - (3) 「安価である」というところを、online courses are reasonable. としたものが散見されたが、reasonable in price、are provided at a reasonable price のように、「価格が」reasonable であるという限定が必要である。
 - (4) The price is cheap. がよく見られたが、cheap は「安っぽい」という響きがある上、price は high、low という形容詞とともに用いられるので、正解にはならない。
 - (5) 一つ目の利点に関する文の「繰り返し」という表現に対して repeatedly*としているものが多くあったが、正しくは repeatedly。

問2

【出題の意図】

この問題を通じて受験生は意見や理由を明確に述べられるかどうか、限られた時間内にアイデアを十分に展開させられるかどうか、段落を論理的に構成できるかどうか、また受験生の英語が十分に通じるかどうかを見たいと考えた。「内容」、「構成」、「言語力」を中心に、40点満点で解答を総合的に採点した。

「内容」については、意見や理由、詳細を十分に説明し、論理的に展開させているかを中心に評価した。「構成」については、マニフェストに相応しい論理的展開になっているか、そうさせるための“discourse markers”や接続詞が正確に尚且つ効果的に使われているかどうかを中心に評価した。「言語力」については、解答を読んで意味が理解できるかどうか、文法・語彙・綴り・句読点が正確に適切に使われているかどうか、受験生は難しい言い回しや語彙を使おうとしているかどうか、使った場合はどのくらい正確に使えたかなどを中心に評価を行った。

【解答の傾向】

よく書けている答案では、正しい接続語句(接続詞、接続副詞)を効果的に使い、文法的にも比較的しっかりした文章が書けており、自分の意見をきちんと打ち出し、適切な事例でサポートできていた。

一方、そうでない答案では、毎年あるように、量的に明らかに少なく、文法的エラーが多い、論理性に乏しい文章が多く見られた。頻繁に見られた語彙・文法上、表現上の問題としては、以下のようなものがあつた。

- (1) 比較級、最上級のエラーとして、more good、more clean など。
- (2) 「意見箱」 an opinion box ではなく、a box of opinions。
- (3) because of this ～、あるいは for this reason となるべきところが this is because となって因果関係が逆になっているもの。
- (4) 同じ答案の中で同一の単語が異なったスペルで使用されていることがある。
- (5) clean と beautiful の混同。
- (6) dirty と duty の混同。